

6 平成20年度事業計画

1) ニゴロブナ栽培漁業推進事業（県補助事業：年間）

本県漁業の中心魚種であるニゴロブナの急激な減少に対処して、栽培漁業による資源回復を速やかに進めるため、栽培漁業センターの陸上池、湖上網イケス等や、水田の生産力を活用して生産効率を高めながら、増殖効果の高い種苗の生産と放流を実施する。あわせて放流効果と放流方法の改善を図るため標識追跡調査を実施する。

- ・水田育成 2cm 種苗 800万尾
- ・大型 12cm 種苗 120万尾
- ・放流効果モニタリング 耳石標識調査等

2) 温暖化適応型ニゴロブナ種苗放流技術開発事業（県委託事業：新規）

通常、琵琶湖の水温は晩秋期には表層と底層でほぼ一定になり、この時期にニゴロブナ種苗を放流するとスムーズに湖底に移行し越冬するが、近年地球温暖化の影響を受け水温が一定になる時期が遅れるため、種苗の飼育期間を3ヶ月程度延長して放流し、通常期（晩秋期）放流との放流効果を比較検証する。

- ・放流時期 2月末
- ・放流尾数 10万尾（12cm種苗）
- ・追跡調査 漁獲物調査

3) ホンモロコ資源緊急回復対策事業（県委託事業：年間）

減少したホンモロコ資源を回復させるため、姉川人工河川およびホンモロコ産卵場に発眼卵とふ化仔魚を大量に放流する。また、次年度大量放流試験に向け採卵用親魚の生産を実施する。

- ・ふ化仔魚生産 7,000万尾
- ・採卵親魚生産 60万尾

4) 人工河川管理運用事業（県委託事業・年間）

アユ資源の安定維持を図るため、8月末から9月上旬にかけて養成親魚を安曇川人工河川に放流し、また9月上旬から10月中旬に天然親魚を特別採捕し姉川人工河川に放流して効果的に産卵させ、ふ化仔魚の流下を助長する。

- ・養成親魚放流 8トン（安曇川人工河川 8月末～9月上旬）
- ・天然親魚放流 3.5トン（姉川人工河川 9月上旬～10月中旬）

5) 沿整増殖場施設管理点検事業（県委託事業・年間）

沿岸漁場整備開発事業により琵琶湖の沿岸域に設置された17ヶ所の増殖につい

て、施設の破損等や集魚状況の確認、標識灯の太陽電池パネルの清掃、雑木等の伐採を行い、施設の有効利用と湖上事故防止に努める。

6) 情報提供事業

インターネットによるホームページや協会ニュースの発行などにより、漁業者および県民に琵琶湖栽培漁業センターの事業を中心とした水産業の情報の提供に努める。

7) 自主事業・湖づくり活動推進支援事業

栽培漁業センター内の遊休施設等の有効利用を図りながら、琵琶湖の重要水産資源の早期回復と今後の栽培漁業対象魚種の各種技術の習得に向けて、県の補助・委託事業に加えて独自に種苗生産・放流、調査事業等に取り組む。

1) ニゴロブナ

大型	12cm 種苗	5万尾	(購入)
	2cm 種苗	200万尾	
水田育成	2cm 種苗	200万尾	(10ha)
シート型浮き産卵床開発調査(モロコも含む)			
標識放流魚追跡調査(南湖放流7万尾を対象)			

2) ホンモロコ

2cm 種苗	300万尾	(山田筏網イケス)
--------	-------	-----------

3) アユ

天然親魚放流	5トン	(安曇川人工河川)
--------	-----	-----------

4) ワタカ

親魚養成
採苗試験